

環境活動レポート

2024

(2023 年 10 月 1 日～2024 年 9 月 30 日)

2024 年 11 月 15 日

有限会社花沢木工

環境推進者 廣瀬典史

目 次

- I. 環境方針
- II. 事業活動の規模
- III. EA21 組織図
- IV. 環境目標と実績
- V. 環境活動の取り組結果の評価
- VI. 次年度環境活動の取り組計画
- VII. 環境関連法規制の遵守状況
- VIII. 代表者による全体評価と見直し

I. 環 境 方 針

《 基本理念 》

有限会社花沢木工は、地球環境の保全が人類共通の最重要課題の一つであることを認識し、事業活動を通じ環境負荷の低減に努め、より良い地球環境づくりと地域社会への貢献に、全従業員一丸となって積極的に取組む努力を進めてまいります。

《 行動指針 》

1. 全ての事業活動において生じる、環境への負荷を低減するために環境経営システムを確立し環境活動の継続的改善を行います。
2. 全ての部門で二酸化炭素排出量の削減、廃棄物排出量の削減、水使用量の削減、及びグリーン購入に取り組めます。
3. 環境に配慮した物作りで、再生資源の積極的利用に努めます。
4. 環境に関する法律、規制、及び当社が合意するその他の要求事項を遵守し、地球環境との調和、並びに汚染予防に努めます。
5. 環境方針は、全ての従業員、及び当社に直接関わる人々に周知し、環境保全活動推進への意識を高め、よき地域住民として地域社会に貢献します。
6. 上記基本理念に則した活動を維持するために、従業員への教育を行い、環境に対する意識の向上を図ります。
7. この環境方針は内外に公表し、要求があったときはいつでも提示します。

平成 26 年 11 月 20 日
有限会社 花沢木工
環境経営責任者
代 表 取 締 役
花沢利一

Ⅱ．事業活動の規模

事業所名及び代表者名並びに所在地

有限会社花沢木工 環境経営責任者 専務取締役 花沢一彦
所在地
杉戸工場 〒345-0023 埼玉県北葛飾郡杉戸町本郷 1103-1

環境管理責任者

担当者 統括部長 廣瀬典史

連絡先 電話 0480-37-4801 FAX 0480-37-4811

事業規模

- 1) 製品出荷額 … 2 5 0 百万円／年
- 2) 主要製品生産量 … 1, 5 8 5 t／年
- 3) 従業員数 … 1 6 名
- 4) 工場敷地面積 … 3, 8 7 0 m²

事業内容

- 1) 木工業（住宅用下地合板の加工）

対象範囲

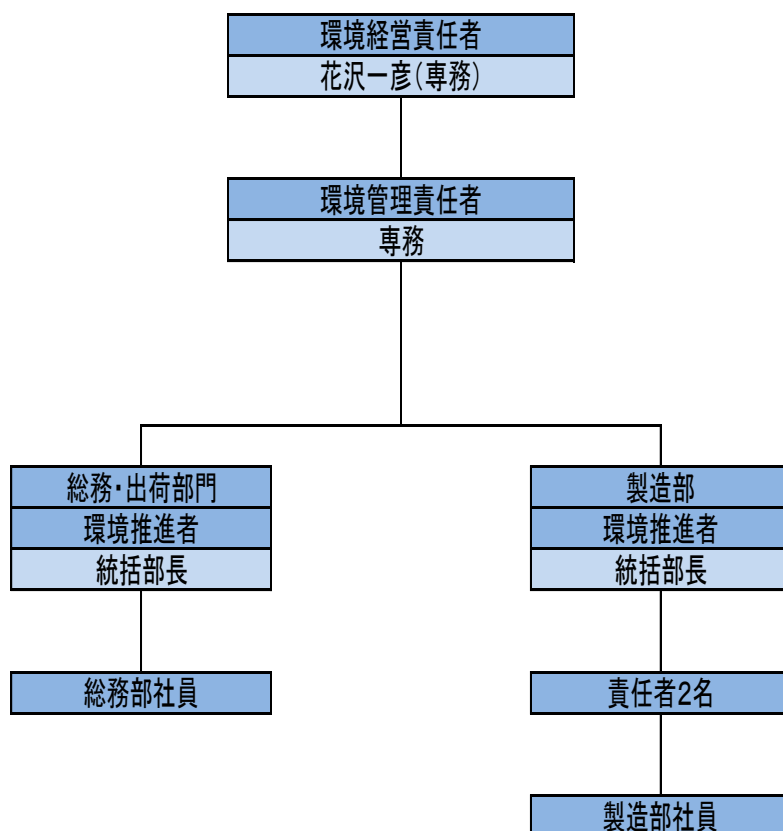
- 1) 全組織及び全活動

主な取引先

積水化学工業株式会社、東京セキスイファミエス株式会社、東京セキスイハイム工業株式会社、
セキスイハイムサプライ株式会社、ジャパン建材株式会社、大建工業株式会社、株式会社テクノア
ソシエ、利高工業株式会社

Ⅲ. E A21 組織図

環 境 経 営 体 制 図



責任と権限

役職名	責任・権限	資格・条件	指名・選任
環境経営責任者	環境方針の策定。 当社の環境経営についての全責任を有する。 EA21の効果的な推進に必要な資源を用意する。		代表取締役
環境管理責任者	環境関連法規の取りまとめと評価。 環境経営責任者に代わってガイドラインの要求事項を満たす 環境経営システムを構築・運用し、その状況を環境経営責任 者に報告する。		専務
環境推進者	環境経営体制の作成。 環境管理責任者のもと、EA21の運用につき製造係を管理 し、その責任を負う。内部監査員を兼ねる(自部署を除く)	各係長 環境管理講習受講者	専務・製造係長
社員	環境管理責任者の指示を受け、EA21システムが定めた手 順に従い業務にあたる。		

IV. 環境目標と実績

1) 環境目標①

2018 年度より、新ガイドライン 2017 年度版への移行を実施。

以下に、2022 年度からの 3 ヶ年計画として数値目標を掲示する。

本年度が 3 ヶ年計画の最終年度。

表-1

2021年10月作成

環境目標		単位		基準	目標数値		
				2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
				(2020.10～2021.9)	(2021. 10～2022. 9)	(2022. 10～2023. 9)	(2023. 10～2024. 9)
営業数値	売上高	百万		289	295	301	307
	前年対比	%		102.8	102.0	102.0	102.0
	ユニット数	点		29260	30723	32259	33872
	前年対比	%		109.0	105.0	105.0	105.0
二酸化炭素排出量の削減	電気使用量	kg-CO ₂		57551	60432	62905	66051
		ユニット数対比(※)		196.7	196.7	195.0	195.0
	ガソリン・軽油	kg-CO ₂		4768	5008	5161	5420
		ユニット数対比		16.3	16.3	16.0	16.0
	合計	kg-CO ₂		62319	65440	68067	71470
廃棄物排出量の削減		総排出量	t	91.7	92.2	93.6	94.8
		ユニット数対比		0.31	0.30	0.29	0.28
		内再資源量	t	80.2	78.3	79.5	80.6
		割合	%	87.5	85.0	85.0	85.0
		最終処分量	t	11.5	13.8	14.0	14.2
		割合	%	12.5	15.0	15.0	15.0
化学物質使用量の管理		kg		1440	1440	1440	1440
		%(ユニット数対比)		4.92	4.69	4.46	4.25
		酢酸ビニル含有量		720	720	720	720
省資源(コピー用紙の管理)及びグリーン購入		枚		144036	153615	161296	169361
		ユニット数対比		492.26	500.00	500.00	500.00
水資源		m ³		206	206	206	206
納品パレット・ボックスの循環				破損パレット・ボックスの修繕使用 有効活用			
地域交流				側溝清掃・イベント会場提供			

(注) 購入電力の排出係数については、国が公表する電気事業者毎の排出係数0.441(kg-CO₂/kWh)を使用

※作成日2021年10月の電気事業者別(東京電力)二酸化炭素排出係数

※社内生産の総ユニット数に対しての指数(各数値をユニット数で割り100を掛けた値)を用いて、

各年度の目標数値を定めるものとする。

※電気使用量における二酸化炭素排出量の削減については、ユニット数対比で、3年計画1.7%の削減目標。

※ガソリン・軽油における二酸化炭素排出量の削減については、1回/日の配達頻度が固定の為、数値目標も固定。

※化学物質の使用量に関しては、作業に必要な木工用ボンドの為、目標数値を固定。

※水資源については、トイレ・手洗い・機械洗浄のみで使用。必要量として目標数値を固定。

環境目標②

本年度が短期3ヵ年計画の最終年度のため、2025年度からの短期3ヵ年計画を下記に掲示。

表-1-2

2024年10月作成

環境目標		単位		基準	目標数値		
				2024年度	2025年度	2026年度	2027年度
				(2023. 10～2024. 9)	(2024. 10～2025. 9)	(2025. 10～2026. 9)	(2026. 10～2027. 9)
営業数値	売上高	百万		250	253	255	258
	前年対比	%		96.9	101.0	101.0	101.0
	ユニット数	点		28658	28945	29234	29526
	前年対比	%		89.1	101.0	101.0	101.0
二酸化炭素排出量の削減	電気使用量	kg-CO ₂		54523	54500	54000	53500
		ユニット数対比(※)		190.3	188.3	184.7	181.2
	ガソリン・軽油	kg-CO ₂		4921	4921	4921	4921
		ユニット数対比		17.2	17.0	16.8	16.7
	合計	kg-CO ₂		59444	59421	58921	58421
廃棄物排出量の削減		総排出量	t	71.5	71.5	71.5	71.5
		ユニット数対比		0.25	0.25	0.25	0.25
		内再資源量	t	51.5	52.0	53.0	54.0
		最終処分量	t	20.1	19.0	18.0	17.0
化学物質使用量の管理		kg		1480	1480	1480	1480
		%(ユニット数対比)		5.16	5.11	5.06	5.01
		酢酸ビニル含有量		740	740	740	740
省資源(コピー用紙の管理)及びグリーン購入		枚		109022	100000	95000	90000
		ユニット数対比		380.42	345.49	324.96	304.81
水資源		m ³		193	200	200	200
納品パレット・ボックスの循環				破損パレット・ボックスの修繕使用 有効活用			
地域交流				側溝清掃・イベント会場提供			

(注) 購入電力の排出係数については、2024年度の電気事業者別(東京電力)が公表する排出係数0.408(kg-CO₂/kWh)を使用
排出係数については、3年間同数値を使用するものとする

※社内生産の総ユニット数に対しての指数(各数値をユニット数で割り100を掛けた値)を用いて、
各年度の目標数値を定めるものとする。

※電気使用量における二酸化炭素排出量の削減については、ユニット数対比で、3年計画14.4%の削減目標。

※ガソリン・軽油における二酸化炭素排出量の削減については、1回/日の配達頻度が固定の為、数値目標も固定。

※化学物質の使用量に関しては、作業に必要な木工用ボンドの為、目標数値を固定。

※水資源については、トイレ・手洗い・機械洗浄のみで使用。必要量として目標数値を固定。目安約200m³

※省資源(コピー用紙)に関しては、ペーパーレスの取り組みを段階的に実施予定

2) 過去3年間の活動実績

過去3年にわたる活動実績を下表に示します。

表-2

環境目標		単位	2022年度	2023度	2024年度			
			(2021. 10～2022. 9)	(2022. 10～2023. 9)	(2023. 10～2024. 9)			
			実績		実績	目標数値	目標比(%)	
営業数値	売上高	百万	316	258	250	307	81.5	
	前年対比	%	109.4	81.6	96.9	102.0	95.0	
	ユニット数	点	32183	32146	28658	33872	84.6	
	前年対比	%	110.0	99.9	89.1	105.0	84.9	
二酸化炭素排出量の削減	電気使用量	kg-CO ₂	58276	49095	54523	66051	82.5	○
		ユニット数対比(※)	181.1	152.7	190.3	195.0	97.6	○
	ガソリン・軽油	kg-CO ₂	4618	4585	4921	5420	90.8	○
		ユニット数対比	14.35	14.26	17.17	16.00	107.3	△
	合計	kg-CO ₂	62894	53680	59444	71470	83.2	○
	廃棄物排出量の削減	総量 t	92	76	71.5	95	75.4	○
ユニット数対比		0.29	0.24	0.25	0.28	89.1		
内再資源量 t		77.2	62.4	51.4	80.6	63.8		
割合		84.0	82.5	71.9	85.0	84.6		
最終処分量 t		15	13.2	20.1	14.2	141.3	×	
割合		16.00	17.5	28.1	15.0	187.4	×	
化学物質使用量の管理	kg	1420	1360	1480	1440	102.8	△	
	ユニット数対比	4.41	4.23	5.16	4.25	121.5	×	
	酢酸ビニル含有量	710	680	740	720	102.8	△	
省資源(コピー用紙の管理)及びグリーン購入	枚	178779	122693	109022	169361	64.4	○	
	ユニット数対比	555.5	381.7	380.4	500.0	76.1	○	
水資源	m ³	197	200	193	206	93.7	○	
納品パレット・ボックスの循環 (単位cm)		廃棄実績 1100×1100規格0台 2500×1000規格3台 修繕実績 1100×1100規格0台 2500×1000規格0台 新規作成 1820×1000規格0台 910×910規格0台						
(参考数値 太陽光発電)	kWh	82668.0	85030.9	86759.2	昨年比	102.0		

(注) 目標数値に関して購入電力の排出係数については、国が公表する電気事業者毎の排出係数0.441(kg-CO₂/kWh)を使用

※2022年度実績 二酸化炭素排出係数: 0.452(kg-CO₂/kWh)

※2023年度実績 二酸化炭素排出係数: 0.376(kg-CO₂/kWh)

※2024年度実績 二酸化炭素排出係数: 0.408(kg-CO₂/kWh)

【評価】○: 目標達成100%以下 △: 目標ライン100.1%~110%(次年度へ向けて取り組みの継続)

×: 未達成110.1%以上(次年度へ向けて取り組みの見直し)

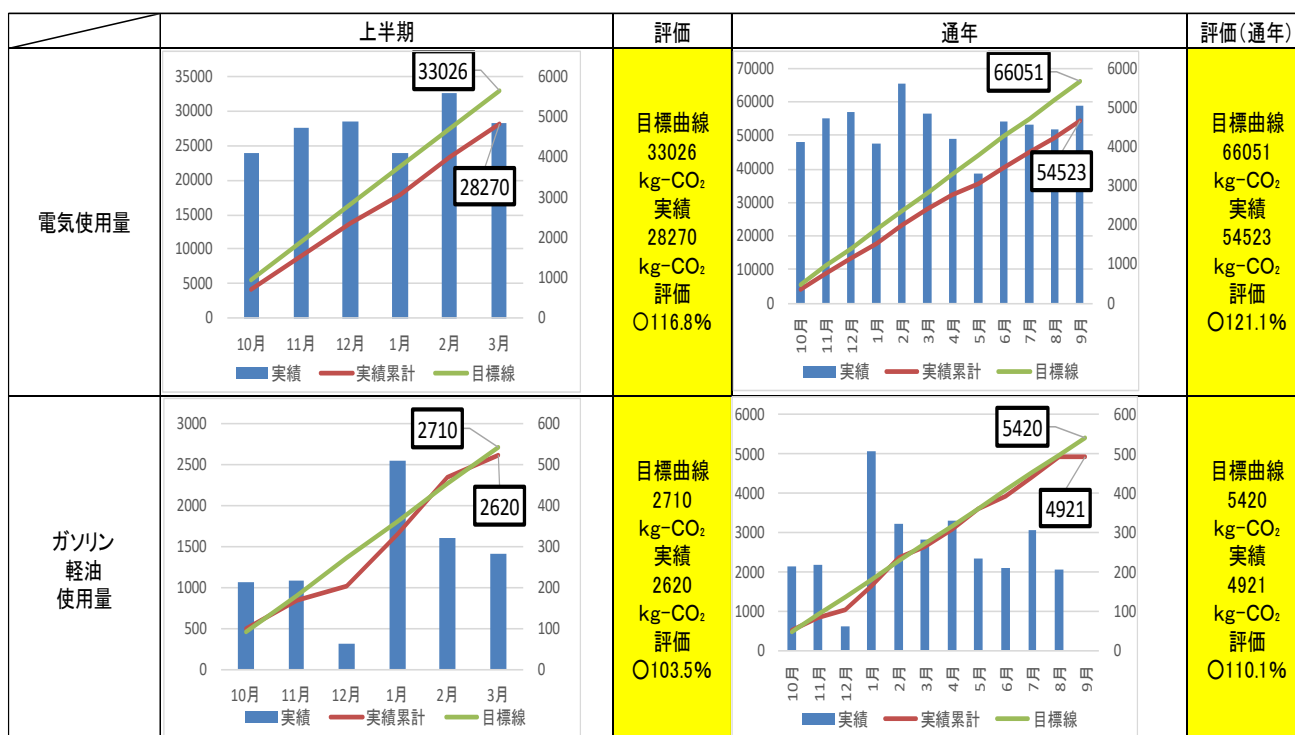
○本年度の売上高は、目標数値に対して 81.5%、昨年比にして 95.0%の実績。102.8%~109.4%と 2 期連続で増加していた折、昨年度より減少に転進。今期はユニット数の減少幅に比べ売上高の確保に成功。製品単価の向上を 1 つの課題とし取り組んできた内容が身を結ぶ形となっている。

生産数を示すユニット数については、目標数値に対して 84.6%、昨年比にして 89.1%の実績となり、全体の出荷量自体は落ち込んでいる。数字の現象だけを見るとマイナス要因に感じられるが、薄利多売傾向が顕著に表れていた当社の売上構成を考えると、上記で述べたように単価の向上は望ましい傾向と言え、年度を重ねるごとに一品単価の減少が顕著となり、生産活動に支障をきたしつつあった運営を向上させる内容である。

ただし、環境負荷軽減に向けた取組の目標数値に関しては、当社は売上高との比較ではなく、生産量を示すユニット数との比較を重要視しており、下記で掲げるように生産量が減少していることを踏まえ、目標数値を達成していることが大前提となってしまう。

○自社の特徴として、多品目多量生産があげられる。そのため数値評価は、目標数値ごとの評価はもちろんのこと、独自に実施している、生産ユニット数で指数を現したユニット数対比を用いることで、比較を実施することが望ましいと考えられる。具体的には、評価項目ごとに、今期の生産ユニット数の実績 84.6%の目標達成率が一つの目安となる。

○近年ではコロナ禍の影響で、売上高・ユニット数ともに落ち込み、削減目標についても、目標値に対して大幅な乖離を見せる達成を見せていた。そのため、特別な正処置や、細かな対応なども不要であった。2022 年度より、実績に即した目標数値を見直し、新たな 3 カ年計画として取組を実施しているが、それでも目標数値との乖離も大きく、容易に目標数値を達成する項目も少なかった。次年度から新たに作成する 3 カ年計画では、目標数値の精度を高める努力が必要である。

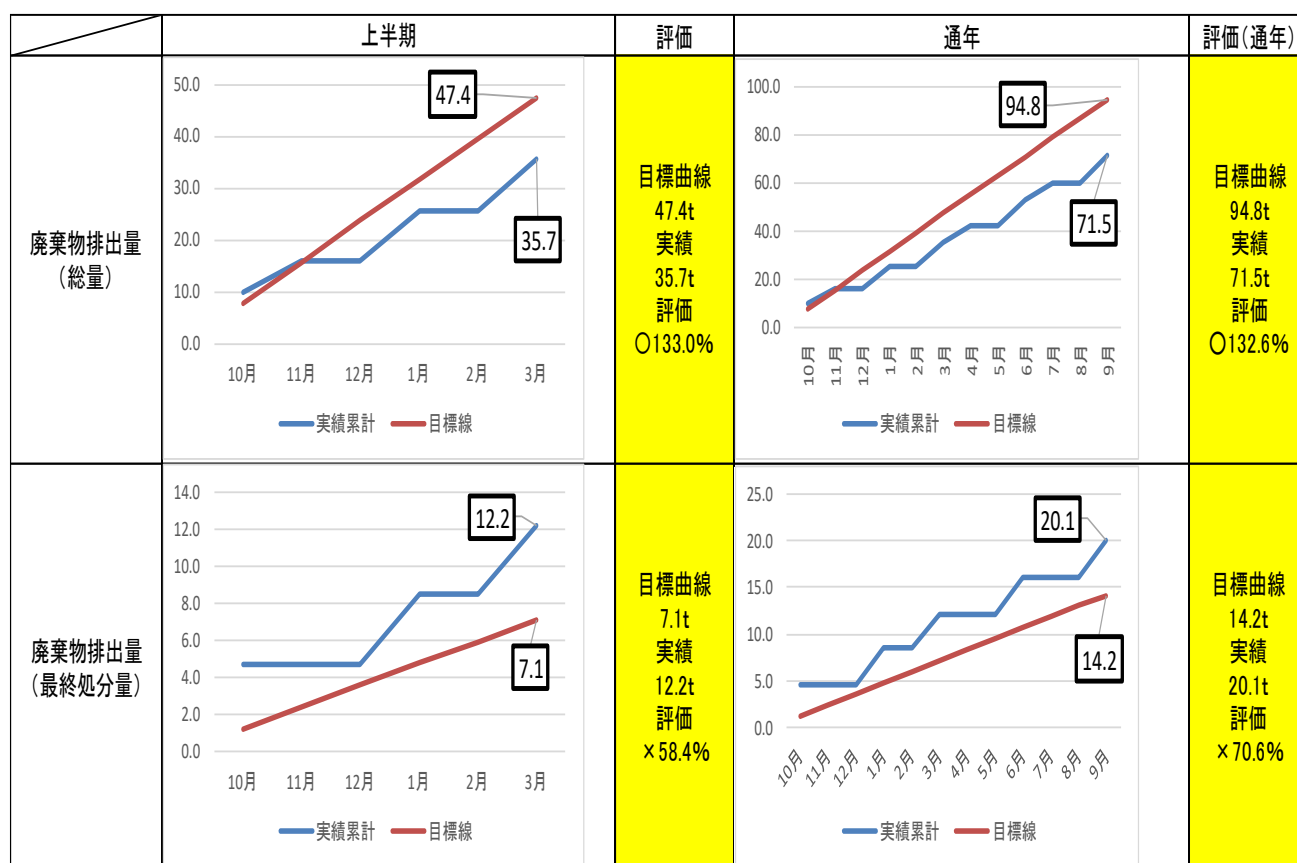


〇二酸化炭素排出量については、電気使用量とガソリン・軽油の使用量とに分けて実績を把握している。電気使用量については、目標 66051kg-CO₂に対して、実績 54523kg-CO₂（121.1%）での達成となった。工場の稼働日数・常時発生する設備維持や、日中の機械稼働時間等、常設の電力消費によって、ある程度固定化されるのが当然である。ガソリン・軽油等と合わせても、二酸化炭素排出量に限って考察するならば、極端な、残業・休日稼働、無理・無駄が発生しない限りは、目標数値作成時に、的確な数値予想によってある程度の数値コントロールが可能といえる。目標数値の達成・不達成に注目するよりは、実績が 100%に近い目標数値を事前に作成することが望ましいといえる。

本年度新たに実施した対策は、コンプレッサーの設定値を見直し、生産活動に支障をきたさない数値に落としたことで、毎日フル稼働させる機械だったこともあり、通年で電気使用量を削減する形となった。

また、東京電力エナジーパートナーから発表される、二酸化炭素排出係数が極端に影響するケースも無視できない。2020 年度から、0.441-0.455-0.452（kg-CO₂/kWh）と推移してきた二酸化炭素排出係数が 2023 年度実績は 0.376（kg-CO₂/kWh）での計算となっている。これは最終的な数値に 20%程度の影響を及ぼし、無視するには大きすぎる実績である。今期は、0.408（kg-CO₂/kWh）で公表がなされていた。3年間の数値実績で分かるように、二酸化炭素排出量には上下が見られるがその実、電気の使用量（kWh）では3年間で5%程度の誤差でとどまっており、年間の使用量はほぼ固定で予測しやすい数値となっている。今後は、具体的な削減数値が分かる対策が必要となる困難さも含まれている。

ガソリン・軽油の使用量についても、目標 5420kg-CO₂に対して実績が 4921kg-CO₂（110.1%）と達成の結果である。ガソリン・軽油の使用量について、特筆すべき点が1点挙げられる。ガソリンが会議などに使用する乗用車への消費に対して、軽油が納品などに使用するトラックに消費されている点である。昨今では行動制限が緩和されつつなる中ほとんどの会議・招集が再開傾向となり、昨年比でみると 107.3%での増加傾向にあることがうかがえる。



〇2018 年度から、ガイドライン 2017 年版を用いたことにより、再資源量の把握と、最終処分量（埋め立て量）の把握を実施している。社内製品のほとんどが木材加工（再資源量）で、一部サイディングボード（最終処分量）を使用している当社にとって、産業廃棄物の約 85%が再資源量の扱いとなる。そのことを踏まえたうえで、当社が最も重要視すべき点は、産業廃棄物の総量を抑えることもさることながら、最終的に埋め立てとされる、最終処分量を如何に抑えていくかという点である。

産業廃棄物については、目標 94.8 t に対して 71.5 t（132.6%）の達成。ただし、最終処分量については全体に占める割合の目標を達成出来ず。最終処分量が 7 t 増加した代わりに、木材の排出量は、11.5 t 削減されている。取引先の影響で、ユニット数が減少し製品単価が増加したため、木材の排出量も削減。

新たに、廃材を使用した製品化を考案。使い道のなかった廃材を有効活用できたことで削減につながり、経費削減にもつながっている。初めての試みとして、廃材の販売も実施。2度目が実施できていないので、定期的に実施することで、再資源量の削減には改善の余地が残されている。サイディングボードに関しては木材と異なり単一規格しかなく、受注を続ける限り、自社努力での削減

が困難な状況。サイディングボードの排出量が維持されている状況が売り上げも維持されている事実であり、悩ましい関係性といえる。

本年度、総量に占める最終処分量の割合は、28.1%の 20.1 t となっており、昨年と比較すると重量・比率ともに増加している。サイディングボードの回収は 1 年に 5 回程度しかなく、1 回に 4 t 前後を回収される。そのため、回収時が年度末の前後どちらに入るかで、絶対量が少ない最終処分量の目標達成率に大きな差が出る。本年度は回収が 5 回なのに対して、昨年度は回収が 4 回となり、7 t の誤差がちょうど 1 回分の誤差となっている。このままの傾向で行くと、来年度が減少、再来年度が増加の傾向となる。再資源量の把握は通年で、最終処分量の把握は隔年で実施していくことも重要である、

（木材とサイディングボードを使用した際の売り上げ比率は、おおよそ 9 : 1 の割合である。木材の比重を 0.6、サイディングボードの比重を 1.2 として、その他にも製品化時の歩留まりの関係などもあり、産業廃棄物に占める最終処分量の割合を 15%と設定している。）

○自社での化学物質の使用量については、接着材として使用しているエスダイン 5300 が唯一あげられる（含有 PRTR 制度対象物質名：酢酸ビニール 含有率 50.0%）。項目化して管理を行っているが、製品加工の接着に必ず必要な物であり、過剰な使用や、過度の削減が可能な項目とは言えない。納品ロットが 20 kg/1 箱となっており開封後の容量が多い為、5%前後の乖離は誤差といえる。今年度の実績は 1480 k g となっており、昨年の 1360 k g からは増加である。ただし、廃材を利用した新たな製品化が、接着材を使用した張り合わせ材を使用しているため、昨年と比較して、増加していることは必然と言える。次年度が本年度と同量であれば特段問題とは言えない。今後も、適切な管理を実施し一定の数値を維持したうえで、製品化の見直しなどにより削減が見込まれる際には、積極的に取り組みを強化していきたい。

○コピー用紙の管理については、長年悩まされ続けてきた項目である。2013 年度～2018 年度まで

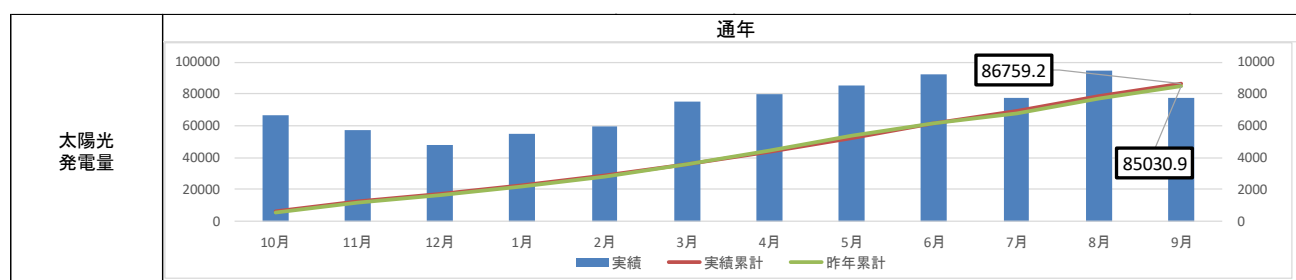
の6年間、増加傾向にある新規品番の登録によって増加傾向が止まらない状態が続いた。品番が新たに登録されるたびに、指示書・図面・手順書等、必要な事務印刷が追加されている。毎年、1,000～2,000品番以上が新たに追加されている現状。2017年-2016年の増加率126%、2016年-2015年の増加率128%の実績で、2018年-2017年の増加率は107.0%であった。複数年での取り組みを視野に、不要印刷物・重複データの見直し、帳票類のデータ化等、取り組むべき項目を掲げ取り組みを実施。徐々に効果が出始め、2019年度にようやく増加率99.9%の実績までたどりついた。2020年度は109.8%と再びの増加に転じてしまい、親会社との連携を通じ、データ化の共有や、帳票類のデータ化に努めている最中である。

昨年度は昨年比68.6%の実績となっており、近年でまれにみる減少幅で実績が残っている。枚数自体は、2020年度と同等である。昨年度の使用枚数がたまたま少なかったのか、ペーパーレスの取り組みにより効果が出始めたのか、本年度は反動での大幅な反発も予想されたため、増加幅を注視してきたが、上半期から大きな差異は見られなかった。

今年度から新たな削減案として、日々の作業指示を1/2の縮小にして印刷し、印刷数量を半減する取り組みを実施。平均40枚/日を見込んで取り組んだところ、昨年度から約13000枚の削減に成功。予定通り50枚/日を達成。次年度以降も削減目標を定めた内容で、具体性のある対策を実施していきたい。

○水資源については、器具・機械の洗浄と手洗い場のみの使用である。毎年度、実績に大差なく、必要使用量の範囲内と認識している。今後とも、節水の意識は社内共有を徹底していきたい。2018年度に、冬季の水道管の破裂に見舞われた。これは、工場移設時より既設の設備を使用していたため、一部の水道管が地表面に露出していたためである。上記を受け、地中に埋め込む工事を実施するなど、再発防止策を実施。水道関連の事故はこの一度きりではあるが、今後とも、明細受け取り時に異常値の有無確認や設備の老朽化対策など、必要な改善を随時実施していくことで、不要な資源の流出に努めていきたい。

○設備投資で実施している、太陽光発電については全量買い取り契約となっているため、直接的に工場内で環境負荷軽減に役立っているとは言い難いが、86759.2 kWh の発電実績。



昨年比で 102%の実績となっているが、天候に左右されるため、評価の対象ではない。参考までに、二酸化炭素排出量に換算すると、35,398 kg-CO₂となり、当社の電気使用量からなる二酸化炭素排出量 54,523kg-CO₂に対して 64.9%に相当する。昨年度は、7月に太陽光パネルの不具合により未発電の月が存在した。毎月の実績を確認することで、早期発見につながり、ひと月のみの不具合で対応が完了している。次年度以降も、定期的なメンテナンスを実施し、安定した発電につなげていきたい。

V. 環境活動の取り組結果の評価

表-3

項 目	実施内容	評価
1.二酸化炭素排出量の削減	1) 不在時、未使用時の消灯	○
	2) 空調温度の適正化	○
	3) 工場機械設備ON・OFFの適正化	○
	4) 生産性向上による省電力	○
	5) アイドリングストップの継続実施	○
	6) 定期的な車輛の点検整備	○
	7) エコドライブの推進	○
	8) 太陽光発電実績把握	○
2.廃棄物排出量の削減	1) 端材の積極的な製品への利用 貼り合せして再合板として使用	○
	2) 端材の分別を徹底し、再利用(他社向け)を行い 廃棄物の削減を図る。	○
	3) 材料の歩留り向上を図る。	○
	4) マニフェストの管理	○
	5) 保管場所での適正管理	○
3.化学物質使用量の管理	1) 備品倉庫での一括管理	○
	2) 納品時の速やかな管理	○
4.省資源及びグリーン購入	1) 裏紙使用	○
	2) 両面印刷の実施	○
	3) 事務所での一括管理	○
	4) 白色度70%以上の再生紙を使用	○
	5) 印刷物削減	○
5.製品及びサービス における環境目標	1) パレット・ボックスの修繕使用	○
	2) 有効活用	○
6.環境コミュニケーション 及び社会貢献	1) 環境レポートの提示	○
	2) 周辺側溝の清掃	○
	3) 構内美化の徹底	○
	4) 地域交流・イベント会場提供	○
7.水使用量	1) 小まめな節水	○
	2) 使用実績把握	○

※優・良・可・不可の4段階評価を実施

VI. 次年度の環境活動の取組計画

表-4

項 目	実施内容	備 考
1.二酸化炭素排出量の削減	1) 不在時、未使用時の消灯	継続実施
	2) 空調温度の適正化	
	3) 工場機械設備ON・OFFの適正化	
	4) 生産性向上による省電力	
	5) アイドリングストップの継続実施	
	6) 定期的な車輛の点検整備	
	7) エコドライブの推進	
	8) 太陽光発電実績把握	
2.廃棄物排出量の削減	1) 端材の積極的な製品への利用 貼り合せして再合板として使用	継続実施
	2) 端材の分別を徹底し、再利用(他社向け)を行い 廃棄物の削減を図る。	
	3) 材料の歩留り向上を図る。	
	4) マニフェストの管理	
	5) 保管場所での適正管理	
3.化学物質使用量の管理	1) 備品倉庫での一括管理	継続実施
	2) 納品時の速やかな管理	
4.省資源及びグリーン購入	1) 裏紙使用	継続実施
	2) 両面印刷の実施	
	3) 事務所での一括管理	
	4) 白色度70%以上の再生紙を使用	
	5) 印刷物削減	
5.製品及びサービス における環境目標	1) パレット・ボックスの修繕使用	継続実施
	2) 有効活用	
6.環境コミュニケーション 及び社会貢献	1) 環境レポートの提示	継続実施
	2) 周辺側溝の清掃	
	3) 構内美化の徹底	
	4) 地域交流・イベント会場提供	
7.水使用量	1) 小まめな節水	継続実施
	2) 使用実績把握	

VII. 環境関連法規制の遵守状況

1. 環境関連法規への違反

『労働安全衛生法』『消防法』『埼玉県生活環境条例』『循環型社会形成推進基本法』
『特定家庭用機器再商品化法』『廃棄物の処理及び清掃に関する法律』『環境基本法』
『使用済自動車の再資源化等に関する法律』『地球温暖化対策の推進に関する法律』
『浄化槽法』『環境の保全のための意欲の増進及び環境教育の推進に関する法律』
『フロン排出抑制法』等、環境関連法規への違反はありません。

2. 環境関連訴訟の有無

環境関連訴訟は、ありません。

VIII. 代表者による全体評価と見直し

表-5

環境方針変更の有無	環境方針 取組方法改善 システム改善 実施体制	☐ 必要 ☐ 必要 ☐ 必要 ☐ 必要	☒ 不必要 ☒ 不必要 ☒ 不必要 ☒ 不必要
項目	報告内容(要旨)	代表者の評価	
1)環境法規制等に対する遵守状況	環境関連法規等遵守状況チェック表 2024.2月にチェックを実施	【優】	
2)近隣住民からの苦情・要望の受付及び処置状況	環境に関する苦情・要望受付表 苦情・クレームは無かった	【優】	
3)環境目標の達成状況	目標数値の概ね達成	【優】	
4)是正処置及び予防処置の実施状況	前年度実績の分析が 確実になされている結果 今年度の是正処置無し	【優】	
5)前回の指摘事項の取組結果	①環境方針 改定は保留 ②プラスチック資源循環法 20名以上の事業者に対応 現行、16名、20名未満での経営方針 ③外部からの苦情等受付結果 様式の活用範囲拡大・見直し	【優】	
指 示 事 項	1. 売上・生産量ともに昨年並みの実績です。目標数値・達成実績ともに大きな差異は感じられません。引き続きEA21への取り組みを通して社内全体に浸透できるよう心がけてください。 2. ペーパーレスの取り組みが本格的に身を結びつつあります。さらなる取り組みと、削減が目に見える対応策の提案を期待します。		